

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立多摩工科高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局 副校長および副校長マネジメント支援員 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務主任兼務)、主任教諭(生活指導主任兼務)、主幹教諭(進路指導主任兼務)、主任教諭(学校運営部主任兼務)、主幹教諭(4科工業科主任及びデジタル科主任兼務)、書記（新規採用）、副校長マネジメント支援員 計10名
- (4) 協議委員の構成
元大学教授、近隣自治会会長、市教委係長、近隣中学校長、地元企業部長級、同窓会会長、警察署課長級、消防署出張所長、PTA会長 計9名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月27日（木曜）内部委員9名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の教育活動の概要説明、意見交換
 - 第2回 令和6年11月29日（金曜）内部委員9名、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告
防災教育について
 - 第3回 令和6年2月7日（金曜）内部委員9名、協議委員8名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年11月29日（金曜）内部委員1名、協議委員3名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和6年2月9日（金曜）内部委員1名、協議委員3名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

(

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度		
					配布数	回収数	回収率
生徒	100%	100%	80.9%	90%	454	421	93%
保護者	33%	74.9%	38.2%	58%	454	221	49%
教職員	100%	100%	100%	100%	57	35	61%
地元自治会	75%	100%	100%	100%	20	12	60%
中学生	100%	100%	100%	31%	約 500	151	30%

(3) 主な評価項目

- ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、働き方など

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

- ・生徒はおおむね本校の教員の授業について満足しているが、保護者は必ずしも満足しているとは言えない。
- ・生徒、保護者の多くがインターンシップや資格取得指導に満足している。
- ・生活指導が厳しいと思っている生徒、保護者が一定数いる。
- ・家庭学習の時間、習慣が低い。

(5) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)

令和6年度学校評価アンケート集計結果報告

今年度より、カラーを使用し、A4サイズでのアンケートと変更になった。

教員の回収率がよくない。来年度は100パーセントを目指す。

家庭学習をやらないと回答した生徒の割合が25パーセントとなっている。

→レポートを家庭学習が含まれていないのではないかと。アンケートの文言を変える必要あり。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・地域の住民の皆さんとのコミュニケーションなどが取れたことから、通学中に松葉杖で登校している生徒が途中で進めなくなってしまったことなど連絡をいただくことがあった。
- ・学校評価アンケートから生徒は校則に対して厳しすぎるとの意見がある一方で、教員によって指導の基準が異なるなどがあった。
- ・家庭学習の時間について、全体的に少ないことから、実習などのレポート作成にかかる時間が入っていないのではないかと意見あり、次年度以降改善が必要と思われる。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・地域の住民の皆さんからは、以前に比べてよくなったとの意見もあり。
- ・地域の住民は自治会にお願いしているが、高齢化と自治会離れが進み、連携するにも課題がある。
- ・地域の人材活用として、警察や消防署との連携を強化し、より一層推進する。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと事前に情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項 (学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。
- ・生徒を通じたプリント配布では、保護者に届かないことも多いので、今後は東京版 Classi を活用し、周知向上に努めるとともに保護者の登録数を向上させる・(令和6年度85%)

(2) 学習指導

- ・授業におけるICTの活用が注目されているが、本校の生徒の場合、小・中学校であまり学習習慣が身についていないことから、ICTのみの授業では、見ているだけで頭に入っていない状況がある。そこで手書きとのバランスに留意し、生徒にわかりやすい授業に取り組む。

(3) 特別活動

- ・部活動などで、不満な意見が見受けられる。外部指導員や部活動指導員などの外部人材を活用している部活に多く見られ、専任の顧問も含め意識の改善が必要と思われる。

(4) 生活指導

- ・ブラック校則などが報道され、生徒から「髪型を自由にしてほしい」や「校則が厳しすぎる」などの意見もある。しかしながら本校は将来、大半の生徒が就職することから、将来の目標について意識を高めさせ、生徒にも理解させる取り組みをしていく。

(5) 進路指導

- ・今年度は特に意見はなかった、進路決定率は100%となった。今後は求人票のデータ処理の電子化に取り組む。

(6) 特別支援

- ・これまでのいじめのようなトラブルばかりでなく、発達障害などの課題を持った生徒が増えてきている。また通級の実施について準備を進める。またこれまで実施してきた「いじめ対策委員会」を改め「特別支援委員会」とし、課題解決に向けて改善していく。

(7) 健康・安全

- ・わずかながら健診を受診しない教員もいる。声がけをしながら改善していく。
- ・自転車乗車時のヘルメット着用も一般的には努力義務となっているが、学校の自転車で、外へ出るときには、生徒の見本となるように、必ずヘルメットを着用するように心がけている。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
5	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 18回 延952人 企画調整会議 30回 延379人

【成果】

- ・委員の方々の意見を参考に、地域ボランティアへの参加や地域との交流機会を設け、連携強化を深めることができた。

8 その他

- ・教員のアンケート回収率を高めるため、アンケート実施方法に検討の必要がある。
- ・地域の住民の評価は自治会にお願いしているが、高齢化と自治会離れが進み、学校評価アンケートの方法なども検討が必要である。